



確かな学力の向上をめざして【1月】

■次期学習指導要領改訂に向けて ～外国語・外国語活動～

次期学習指導要領（平成32年度全面実施）では、小学3・4年生に外国語活動が、小学5・6年生には教科としての外国語科（英語）が導入されます。これにより、小学校では、担任の約3分の2が外国語と関わることとなります。

- *小学3・4年生…主に学級担任による指導
担任がT1となり、ALTや支援員等を活用したT・Tを中心とした指導
- *小学5・6年生…専門性を高めた学級担任による指導
専科指導を行う教員の活用、ALT等を活用した指導

小学校での「外国語の教科化」に伴い、中学校での指導内容も変わるため、小学校、中学校ともに、他教科以上に入念な準備と、これまで以上に綿密な連携が必要となります。



小学校と中学校の学びをつなげる ～第2回外国語担当者研修会から～

2学期以降、各中学校区において、第2回外国語担当者研修会を開催しています。どの研修会でも、話題の中心となるのは、「授業改善の必要性」「小中連携の必要性」です。校区での研修会の協議内容を校内で共有し、今後の取組に生かしてください。主な意見を紹介します。

◆小学校教員の学び（中学校の授業参観から）

- 英語での指示に子どもが慣れていて、小学校でも、クラスルーム・イングリッシュを大切に、英語に慣れさせていきたい。
- 言葉だけでなく、ジェスチャーを使って自分を表現していた。小学校の授業でも取り入れたい。
- 英語の授業を見ることで、外国語活動のゴールイメージをもつことができた。

◆中学校教員の学び（小学校の授業参観から）

- 「Hi friends!」の内容は中学校での学習とつながっているため、意識して活用したい。
- 外国語活動の授業を参観することで、英語の授業の構成のアイデアを得ることができた。
- 中学校教諭が小学校での授業に入ることで、児童理解にもつながるので、入り込み授業を設定していきたい。



授業力向上に努めましょう！

Let's have fun learning English.



◆小学校では…

- 校内研修の工夫・充実を（実践例紹介）
 - ・中核教員による授業公開と理論研修会を行う。
 - ・職朝等を活用したクラスルーム・イングリッシュ研修を行う。
 - ・「外国語に慣れ親しむためのゲーム」を教師が先生役児童役になり体験する。
 - ・外国語活動の授業に、全教員がT2として入り、授業に関わる機会を作る。
 - ・ALT等を講師とした研修をする。

◆中学校では…

- 生徒が、必要な語彙や表現等を活用できるような活動を仕組み、言語運用能力を高めていく。
- 言語活動の説明は、簡潔な英語とデモンストレーションで行う。（日本語での説明を減らす努力を）
- CAN-DOリストを活用していく。

◆中学校区では…

- 小学校、中学校の授業をお互いが参観したり、協議したりして、教師の指導力向上に努める。

外国語教育の学校全体の取組方針を明確にし、指導体制の強化に取り組んでいきましょう。